

1 単元名 ボール運動「ゴール型（バスケットボール）」

2 単元で育成する資質・能力

○ バスケットボールの楽しさや喜びを味わい、ボール操作に慣れ、ボールを持たないときの動きを理解し技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うことができるようにすること。  
(知識及び技能)

○ 簡易化されたゲームのルールを理解し、チームの特性に合った作戦を選び、工夫したいことを伝え合うことができるようにすること。  
(思考力、判断力、表現力等)

○ 運動に積極的に取り組み、ルールを守って助け合いながら運動をしたり、勝敗を受け入れ仲間の考えやプレーを認めることができるようにすること。  
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ボール運動の特性を理解し、パスやドリブルなどの基礎的な技能を身に付けることができる。 ②技能の名称や身に付けるためのポイントを理解している。 ③ボール保持者と自己の間に守備者が入らないよう移動したり、得点しやすい位置に移動しパスを受けてシュートしたりすることができる。	①ボール操作やボールを持たない時の動きのポイントを見付け、他者に伝えている。 ②課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ③自己やチームの特性に応じた作戦を選んでいる。	①ボール運動の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り仲間と助け合おうとしている。 ③ゲームや練習中、仲間の考えや取組を認めようとしている。

4 単元の指導について

(1) 教材観及び指導観

ボール運動では、ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさを味わえるようにすることが大切である。

本単元では、単元を通して資質・能力を高めることができるようにするために、ハーフコートを使った3対2のアウトナンバーによる簡易化されたゲームを取り入れ、ボール操作とボールを持たないときの動きを中心に学習を進めていく。小学校の発達段階を踏まえ、楽しく安心して基礎的な技能を高められるようにする。運動についての思考力、判断力、表現力等を高め、仲間と対戦を楽しみながらチームの特性に応じた作戦を考えたり、運動の仕方を知識として理解したりした結果として技能を高め、簡易化されたゲームに生かすことができるようにしていく。

(2) 児童の実態

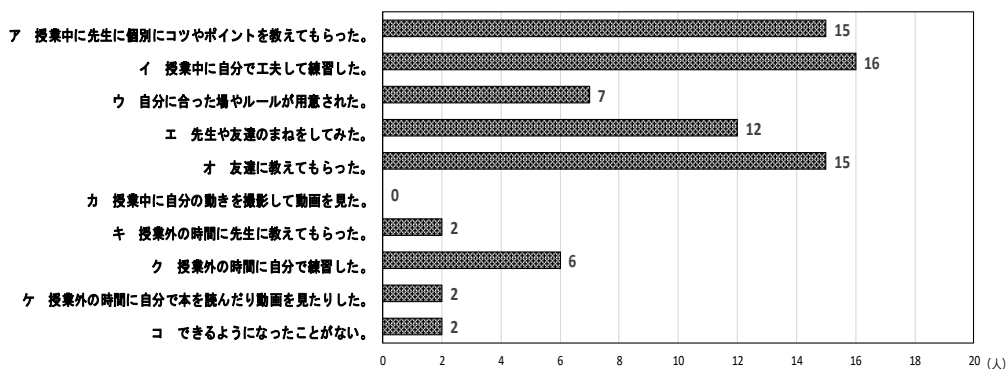
本学級は、体育の学習が好きな児童が多い。中学年で、ポートボールを学習して

いること、少年団に所属してミニバスケットボールを続けている児童が数名いることから、バスケットボールへの興味・関心も高く、意欲的に活動に取り組む児童が多い。体育授業に関する意識調査の結果、項目2の「体育の授業において友達と助け合ったり、役割を果たしたりしていますか」の質問に「よくあてはまる」児童が14人と多いのに対して、項目6の「体育の授業において、課題の発見・解決に向けて自分の意見を友達に伝えることができますか。」には、「よくあてはまる」児童が4人であった。友達と助け合い自分の役割を果たしているものの、課題の発見や解決に向けて自分の意見を伝える意識が低いため、意見を伝え合って課題を解決する力を育てたいと考えた。

そこで、単元を通して、技能を高められるような課題を出すことによって、運動についての思考力、判断力、表現力等を意図的に高め、学び合いの時間を有効に使えるようにして課題の解決に向かい、結果として技能を高められる学習を設定していく。

項目		よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	体育の授業は楽しいと思いますか。	15	3	1	1
2	体育の授業において、友達と助け合ったり役割を果たしたりしていますか。	14	4	0	2
3	卒業した後も運動やスポーツと関わりたいですか。	14	4	0	2
4	体育の授業を通して運動のコツやポイントを分かったことがありますか。	14	5	1	0
5	体育の授業において「分かる」ことで「できる」ようになったり、「できる」ことで「分かる」ようになったりしたことはありますか。	10	8	2	0
6	体育の授業において課題の発見・解決に向けて自分の考えを友達に伝えることができますか。	4	11	2	3
7	体育の授業において、友達と協力して課題を解決できたことはありますか。	11	5	2	2

#### 8 体育の授業で、できなかったことができるようになったきっかけは何ですか？（複数選択可）



体育授業に関する意識調査（令和元年7月1日実施，第6学年 男子\*人 女子\*人 計\*人）

#### 5 単元の指導計画（9時間扱い） 別添資料参照

単元名：小学校第6学年 ボール運動【ゴール型・バスケットボール】  
指導と評価の計画（9時間扱い）

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
ねらい	学習の決まりと運動の行い方、準備の仕方、役割分担を理解することができる。	学習の進め方を理解することができる。	ノードリブルゲームを通して、パスの仕方と受け方、ボールを持たない時の動きを考慮することができる。	スキルアップの動きを使って、ノードリブルゲームを楽しむことができる。	ノードリブルゲームを通してパスの仕方受け方、ボールを持たない時の動き方を考え、ゲームを楽しむことができる。	ノードリブルゲームを通してドリブル、パスを使った攻撃の仕方を考え、ゲームを楽しむことができる。			ルールを守り、学習した技能や作戦を使ってゲームを楽しむことができる。	
5	あいさつ、健康観察、用具の準備、準備運動、本時のめあての確認									
10	役割分担を決め、準備の仕方を知る。	各自分担の仕事を行い学習の準備を進める。終わったら、準備運動を行う。	【スキルアップタイム】 ①シュートスキル ③シュート練習 ②パススキル ④ドリブル練習		【スキルアップタイム】 ①3対2のサークルパス。 ②パス&シュート	【スキルアップタイム】 3対2のサークルパス	【スキルアップタイム】 3対2のサークルパス	【グループ別練習】 グループ毎に、整理した作戦の攻撃練習や、シュート練習を行う。		
15			【ラーニングタイム①】 ①シュートスキル ②パススキル ③シュート練習 ④ドリブル練習							
20	チームに合った準備運動を考える。	本時のねらい、学習の進め方を理解する。	※各チームで考えた練習方法を知り、練習する。		<発問③> 「ボールを持った時、仲間にパスしやすくする方法は、ないでしょうか」	<発問④> 「シュートにつなげるには、どんな場所に移動したらよいでしょうか」	<発問⑤> 「ボールを持たない時、どんな動きが攻めにつながるでしょう」			
25	【スキルアップタイム】 パススキルとシュートスキルの行い方を知る。 ①シュートスキル ②パススキル	【スキルアップタイム】 ①シュートスキル ②パススキル ③シュート練習 ※シュートの位置と打ち方を考える ④ドリブル練習	<発問①> 「パスを確実にもらうには、どんな位置に動けば受けられるでしょうか」	<発問②> 「守りの頭上を通さず、仲間にパスができる方法はないでしょうか」	【ラーニングタイム③】 ピポットを使うと仲間へパスがしやすくなることに、気付くようにする。 ※ピポットの仕方を考える	【ラーニングタイム④】 ノードリブルゲームを行う。 3対2でノーマークの場面がある時の動きを、チームでシミュレーションする。	【ラーニングタイム⑤】 ノードリブルゲームを行う。 3対2でノーマークの場面がある時の動きをシミュレーションする。 ノードリブルゲームの中で考えた動きをカードに記入し、作戦を整理する。	メインゲーム ノードリブルゲームを行う。 3対2（対グループ）		
30	練習の仕方をグループで考える。 ③シュート練習 ④ドリブル練習	【ラーニングタイム】 他のチームが考えた練習方法を知り、ラーニングタイムを行う。	【ラーニングタイム②】※パスの仕方を考える ノードリブルゲームを行い、ボールを持たないときの動きを考慮する。 3対2（グループ内）							
35	【ラーニングタイム】 ラーニングタイムの仕方を理解する。	メインゲーム ドリブルを使わないノードリブルゲームの仕方を理解する。 2対1（グループ内）	メインゲーム ノードリブルゲームを行う。 3対2（対グループ）			メインゲーム ノードリブルゲームを行う。 3対2（対グループ）	メインゲーム ノードリブルゲームを行う。 3対2（対グループ）			
40										
45分	片付け、整理運動、振り返り（カードの記入）									
知	①観察			②観察	②観察		③観察	③カード		
思			①（カード）			②（カード）			③カード	
態		①観察		②カード					③観察	